

属名など	栽培環境	水やり	肥料
【コチョウラン】 Phalaenopsis	やや暖かめ(18 以上)を好むので、冬は室内の暖かい場所で、春の終わり(5月下旬)から秋の初め(9月下旬)までは戸外で管理します。また、強い日光を嫌うので、夏は40～50%の遮光ネットの下に置きます。冬は室内の直射日光の当たらない、やや明るめの場所に置きます。	夏は多め、冬は少なめを基本とします。また、与えるときにはたっぷりを与え、次の水やりは植え込み材料がやや乾くまで待ってから行うようにすることも大切です。びしょりとぬれた状態で寒さに当たると根腐れを起こしやすいので、冬の水やりには注意が必要です。	春(5月上旬)に緩効性化成肥料を置き肥し、その後秋(9月下旬)まで週1回、液体肥料を施します。緩効性化成肥料の代わりに有機系固形肥料を用いる場合は、夏までに2回程度取り替えます。
【デンドロビウム】 Dendrobium <ノビル系>	3月下旬から11月上旬までは戸外で管理し、冬の間は室内の日当たりのよい窓辺に置きます。 1年を通し十分日光に当てることが大切で、特に長い時間日に当てるとよく開花します。5月初めから9月初めまでは弱めの遮光をして葉焼けを防止します。庭木の下などはやや暗すぎる場合が多いので注意が必要です。また、できるだけ株どうしの間隔をあげ、風通しがよくなるようにします。	もともと樹木に着生するランですから、根がびしょりとぬれたままになるのは嫌います。水をたっぷりと与えたあとは、植え込み材料がやや乾いてくるまで次の水やりは行いません。初夏から9月ごろまでは生育がおう盛になるので、この期間のみ、ややぬれていてもたっぷりと水を与えます。10月からは乾かし気味にし、ややバルブがやせてくる程度の水やりとします。その後節々から花芽が見え始めたら水をやや多めにして、開花まで同様の水やりをします。	ノビル系は肥料を施す期間が限られているため、長期間にわたり肥料効果がある緩効性化成肥料は避けま。4月から7月末まで月1回固形の油かす系肥料を施し、さらに週に1回液体肥料も施します。8月以降も株は成長を続けますが、肥料は施しません。
<キングアナム系>	できるだけ強い日光の当たる場所で管理します。春4月ごろから戸外で直射日光に当てて栽培すると、葉も丈夫になり真夏の強光でも日焼けをすることが少なくなります。戸外に出す時期が遅くなった場合は、初夏から秋まで弱めの遮光をしないと葉焼けを起こすことがあるので注意します。寒さには比較的強いですが、10月下旬には室内に取り込み、日当たりのよい窓辺に置くようにします。	春の新芽の伸び始めから秋にバルブが完成するまでは、比較的多めに施します。秋から冬は乾燥させます。春に花芽が伸び始めたら十分な水やりを行います。花芽が伸び始めてから水が足りなくなると、せっかくの蕾が開花せずに落ちてしまいます。	肥料は少なめでも比較的良好に育つランです。5月から7月までに集中的に施し、そのほかの季節は肥料は施しません。長期間にわたり肥料効果のある緩効性化成肥料は効きすぎになることもあるので避け、固形の油かす系肥料を月1回置き肥します。さらに液体肥料も週1回施します。秋遅くまで肥料を施してしまうと、高芽をふやしたり、開花しなくなるので注意します。
原種: ロディゲシイ	【あるHPでは】栽培は容易です。ミスゴケ植えやヘゴなどにくっつけます。水は好むほうですが過湿にならないようにしましょう(度が過ぎると高芽ばかりが出来て花が咲いてくれません)。風通しよく明るいところに置きます。やや暗くても育ちますが花つきが悪くなります。寒さには強いほうで寒風と霜を避け乾燥気味にすると屋外で越冬してくれます(寒冷地では保護が必要です)。増殖は春の植え替え時に株分けや高芽を取って植えつけます。	【あるHPでは】日当たりが強すぎてもだめで、温室の半日陰になるところがお好みようです。	
<デンファレ系> <フォーサモス系>			
【デンドロキラム】 Dendrochilum	5月から10月の気温が高い時期は、戸外に置き、30～50%ほどの遮光をします。風通しのよい場所を選ぶとよいでしょう。11月から4月までは、室内の日当たりのよい窓辺に置き、レースのカーテン越しの日ざしを十分に浴びさせます。天気がよい暖かい日は窓を開けて風を通します。ふだんから置き場の風通しには注意することが大切です。	植え込み材料が乾いてから、水やりするのが基本です。気温や乾き具合に応じて、水やりの量と回数を調整しましょう。パーク植えのものは、乾きすぎに注意をしましょう。梅雨の間は雨に当ててかまいませんが、植え込み材料が乾いていたら水やりをします。7月から9月は早朝と夕方時間帯に水やりを行います。秋の長雨に当てると、病気の原因になるので、当てない方が無難です。花芽や新芽が生じている株は、生育に影響するので、乾かしすぎないように注意しましょう。	5月から6月には月1回、固形肥料を施します。あるいは5月から7月中旬に、規定率の2倍に薄めた液体肥料を水やり代わりに施します。肥料分をそれほど要求しない種類なので、いずれか一方を施せば十分です。
【ディネマ】 Dinema	日当たりのよい場所で通年栽培します。冬は室内の窓辺で、春から秋までは戸外で栽培します。戸外に出すときは、少し日よけをしたほうが株がきれいに育ちます。洋ランとしては比較的低温に強い種類ですが、冬は最低でも5 以上を保つようにします。夏の暑さは問題ありません。	春に新芽が伸び始めてから秋にバルブがしっかりと太るまでは、十分な水やりを行います。冬はやや乾かし気味で大丈夫ですが、蕾を見つけたら水を切らさないようにします。	ふやすことを目的に株をどんどん大きくする場合を除き、あまり肥料をたくさん必要としません。5月の初めから9月末まで液体肥料を10回程度施すか、ごく少量の緩効性化成肥料を1回置くだけで十分です。

洋ランの日々の管理方法(育て方・日々の管理)

出典: NHK出版「みんなの趣味の園芸」ホームページより (2001.04.03)

属名など	栽培環境	水やり	肥料
【エピデンドラム】 Epidendrum	鉢植えて栽培し、できるだけ日当たりのよい場所に置きます。日当たりがよいほど花つきもよくなります。真夏日が続く、日ざしの強いときだけ少し日よけをして葉焼けを防ぎますが、基本的には一年中直射日光に当てておきます。冬は室内でガラス越しの日光に当てます。	植え込み材料が少し乾き始めたころにたっぷりと与えるようにします。夏の気温が高いときは、鉢内がぬれていても新鮮な水を与え続けます。冬の間は、やや乾かし気味に管理します。株が大きくなると気根を株の上部から出すので、水やりのときに空中にある根にも水をかけます。	春に緩効性化成肥料を鉢の大きさに合わせ規定量置き肥します。また春から秋までは週に1回程度、液体肥料を施します。
【ハウエアラ】 Howeara	栽培のポイントは 涼しい湿った風を好む。夏は日陰に吊るして水もタップリ与える。冬は室内で最低気温7 ~ 10 で水やりはやや控えめに。ということになります。【栽培のポイント】交配の親の影響を受け暑さはやや苦手ですが、寒さには強く最低気温が10 を下回っても平気です。夏場はオンシジューム以上に直射日光を嫌い涼しい湿った風を好むので木陰などに吊るすのがポイントです。秋から冬にかけては-低温に強いので-早くから室内に取り入れず、ぎりぎりまで戸外に置いた方が良く育ちます。戸外のほうが風があるからです。(夏場)オンシジュームに比べると暑さを嫌い直射も苦手ですから、木陰の風が良く通りできるだけ湿度の高い場所で栽培します。特に“瀬戸の夕風”の時期、8月初旬からお盆までは置き場によっては扇風機で風を送ってやることも必要です。温度も湿度も高くその上風が無いと株が弱るからです。水は毎日一回夕方から頭から株全体を洗い流すように与えます。(冬場)最低気温が7 位になったら室内へ取り込みます。できるだけ窓辺のほうが良いです。秋から春まではオンシジュームのように良く日に当てることを心がけます。夏場、どうしても遮光を強めにとるので秋から春の間も日陰に置いたのでは日照不足になるからです。花は早ければ初冬に咲くので終わったあとは3月までおとなしく冬越しさせれば良いからです。水も控えめに鉢の表面が乾いているのを確認して夜には乾いている程度に与えます。<生育と開花のパターン>春に出た新芽が夏に向かって生育し、初秋にはバルブになって同時に花芽が覗いてきます。花芽は年末に向かって伸びてきてつぼみも付いてきます。そして多くは年内に開花します。このあたりはオンシジュームとまったく同じパターンです。<開花中の管理>直射日光の当たらない風通しの良い場所に置きます。寒さには強く最低気温7 くらいでも枯れることはありません。水は鉢の表面が乾いてから与えます。大体3.4日に一度です。一律に毎日一回与えるのは多すぎます。出典: タローさんの洋らん栽培	春から秋までの生育期間中はたっぷりと水を与えます。秋の終わりに室内に取り込んでからは乾かし気味に管理し、蕾を見つけたら開花するまでは少し水をふやします。	4月の終わりに油かす系の固形肥料を鉢の上に置き、同時に液体肥料を施し始めます。油かす系の固形肥料は7月まで数回施します。液体肥料は9月末まで週1回の割合で施し続けます。
【マキシラリア】 Maxillaria	日当たりのよい環境を好む洋ランです。冬は室内の窓辺で、4月ごろから10月末までは戸外で管理します。戸外では35%程度の遮光をした明るい場所に置きます。このとき暗くしてしまうと(遮光が強すぎると)花つきが悪くなります。	水を蓄えるバルブをもたないので、乾燥には注意が必要です。通年、植え込み材料が乾ききる前に水やりをします。ただし、真夏に屋外で管理しているときは、湿った植え込み材料が暑さで煮えたようになり、根を傷める心配もあります。真夏はやや乾かし気味に管理することも一案です。	4月中旬から6月までは、規定より3~5倍にし薄めた液体肥料を2週間に1回ほど施します。あるいは、真夏を除いて同様の液体肥料を、月1回ほど与えます。なお、生育の悪い株や植え替え直後の株には、肥料は不要です。
【マスデバリア属】 Masdevallia	低温には強いランなので、11月から4月中旬までは室内の窓辺に置きます。ただし、直射日光には当てないように、レースのカーテン2枚越し程度の日照量にしましょう。暖かくなってからの窓の近くは、高温にも注意が必要です。4月下旬から10月いっぱい、屋外の遮光した場所に置きます。遮光50%を基本にし、日ざしが強くなる梅雨明けから9月中旬は、遮光60~70%にします。暑さには十分気をつけて、扇風機で一日中風を送り、涼しい環境をつくるようにしてください。食品用の冷蔵庫を利用するのもよいでしょう。	オンシジュームは水を好むランです。植え込み材料が乾いたら、鉢の大きさと同じくらいの量の水を少しずつ注いで与えましょう。晩秋から気温が下がったら、徐々に水やりの間隔をあけていきますが、花茎が伸び始めたら、今度は間隔を狭めていきましょう。どんなときも、1回に与える水量は変えず、水やりの間隔で水やり具合を調整することが大切です。	3月下旬から7月上旬、9月中旬から10月中旬は、水やり3~5回につき、1回の割合で液体肥料を施します。また、5月初旬には、固形肥料を施します。固形肥料は、春の1回だけで十分です。施しすぎると、根腐れの原因になります。注意したいのは、春に植え替えた株への施肥です。植え替えから1か月以上たって、根が伸び始めてから、肥料を施し始めましょう。